

(様式1)

平成17年度 事務事業評価表

記入年月日	平成17年4月16日		記入者		内線	750-8025
部名	総務部	課名	市史編さん室		課長名	田所 哲男
事務事業名	市史編さん事業					
予算上の事務事業名	市史編さん事業					
1 総合計画における位置づけ			施策コード	16210		
基本目標	「学びあいあたたかさのある福祉文化都市」をめざして					
政策名	第6章 彩りのある市民文化を創造します					
基本施策名	第2節 郷土意識づくりの推進				事業開始年度	
施策名	第1施策 郷土意識の醸成				平成13年度	▼
2 実施根拠及び関連法令・条例等						
公文書館法、附属機関の設置に関する条例、相模原市市史編さん審議会規則、相模原市市史編集委員会設置要綱						
3 個別計画の概要			概要			
計画名	相模原市史統編編さん基本構想		既刊の市史でふれていない時代・分野について、市史統編10巻を刊行するとともに、編さん過程で収集された資料の保存・活用を図る。			
計画年次	13	年度～	29	年度		
4 事業形態の区分 調査・研究 ▼						
5 事業概要						
(1) 事業の目的(何のために行うのかまたはもたらしたい成果)				(2) 対象(誰、何)		
既刊の市史ではふれていない昭和20年8月以降の現代史及び各分野(自然、民俗、考古等)について市民の協力を得ながら資料収集・調査研究を進め、親しまれ、読みやすい市史を刊行し、郷土意識の醸成に資するとともに、編さん過程で収集された資料の保存・活用を図ることを目的としている。この事業を通して、市民の地域に対する関心と認識が高まるとともに、貴重な自然や歴史・文化遺産が市民共有の財産として将来に継承されることが期待される。また、市域の歴史や現状を見つめ直すことで、市域が持つ課題を明らかにする一助ともなるものである。				相模原市民、相模原市史に興味のある者、及び研究者		
(3) 平成16年度事業の内容(活動)・・・いつ、どのような方法で実施した内容(活動)なのか。						
<ul style="list-style-type: none"> 相模原市史現代図録編の刊行 規格 A4判296頁 11月20日刊行 配布方法 関係各機関...無償配布 一般...有償配布(1冊1,500円) 既刊市史7巻セット50周年記念特別価格販売 審議会、編集委員会の開催 各3回 各部会の開催、調査活動(現代編・自然編・民俗編・考古編・文化遺産編) 市制50周年記念展の開催 会場 市立博物館特別展示室 入場無料 博物館と共催 第1部 10月2日～11月3日 入場者数 5412人 第2部 11月13日～1月16日 入場者数 10217人 市史編さんだより 年6回奇数月発行 ・市史講演会の開催 3月12日 入場無料 112人 市史ノート創刊号の販売と第2号の刊行 						
6 関連・類似事業や他市の状況						
全国の市町村で、同様な目的で実施している。編さん事業を行う期間、刊行する巻数などは自治体により様々である。県内の自治体では、横須賀市が平成11年から新横須賀市史編さん事業を開始し、平成16年度に第1巻を刊行した。今後全15巻を平成25年までかけ事業費約1.5億円で刊行していく予定である。また、昭和60年から始まった横浜市史 全16巻が平成16年に編さんを終了した。						
7 事業費の推移						[単位:千円]
年度	平成14年度(決算)	平成15年度(決算)	平成16年度(決算見込)	平成17年度(予算)	平成18年度(見込)	
事業費	21,673	29,582	37,501	26,564	34,000	
一般財源	21,546	29,463	34,669	24,870	33,900	
受益者負担金	0	0	0	0	0	
その他の特定財源	127	119	2,832	1,694	100	
人件費の合計	51,080	48,782	49,142	49,142	49,142	
事業コスト合計(a)	72,753	78,364	86,643	75,706	83,142	
8 事業効率・・・(複数の事業で構成されている場合は、その中の主たる事業)						
主たる事業名	相模原市史現代図録編刊行事業			対象名称(単位)	巻	
年度	平成14年度(決算)	平成15年度(決算)	平成16年度(決算見込)	平成17年度(予算)	平成18年度(見込)	
事業コスト(主たる事業)	26,934	26,920	38,923	0	0	
対象数	0	0	1	0	0	
単位あたり経費(円)			38,923,000			
前年度比						

9 活動指標・・・実施した内容（活動）の数値化						
指標名 (単位)	刊行物配布数（冊）		指標式と指標の説明	刊行物（相模原市史・市史ノート）の頒布数 有償・無償配布の合計		
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度（目標）	
実績	147.0	154.0	3,255.0			
目標	153.0	164.0	3,964.0	1,500.0	500.0	
目標達成度	0.96	0.94	0.82			
10 成果指標・・・対象と意図の達成度を表す指標						
指標名 (単位)	刊行物有償配布（千円）		指標式と指標の説明	刊行物（相模原市史・市史ノート）の有償配布による収入		
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度（目標）	
実績	88.0	71.0	2787.0			
目標	100.0	100.0	4035.0	1645.0	100.0	
目標達成度	88.0	71.0	69.1			
11 個別評価						
(1) 妥当性の評価 【A：妥当である・B：妥当性に課題がある・C：妥当でない】						
A	<input type="checkbox"/>	法令等により実施することが義務付けられている。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	法令等に定められた市の責務を具体化して実施する事業である。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	公益性が高い、または必需性が高い事業である。				
	<input type="checkbox"/>	将来にわたって、市民のニーズや行政需要がある。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	税金を投入して実施するにふさわしい事業であり、市民にも説明できる。				
(2) 有効性の評価 【A：有効である・B：有効性を高める余地がある・C：有効でない】						
A	<input checked="" type="checkbox"/>	上位施策の目的を達成するために大きく貢献している。				
	<input type="checkbox"/>	課題等の解決や市民生活に大きく貢献している。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	成果指標の実績値とその推移から見て、期待されるような成果をもたらしている。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業の対象範囲は適切であり、対象は事業を実施したことによる効果を楽しんでいる。				
(3) 効率性の評価 【効率が良い・B：効率性を高める余地がある・C：効率が悪い】						
A	<input checked="" type="checkbox"/>	単位あたりの経費は適正である。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	これ以上コスト節減の余地がない。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担や補助等の割合に問題はない。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業の実施方法や実施体制は適正である。				
(4) 民間活力の導入の可能性 【有・無】						
無	<input type="checkbox"/>	業務の一部または全部について、民間で実施する方が経費の節減に繋がる。				
	<input type="checkbox"/>	業務の一部または全部について、民間で実施する方が技術・知識面で優れている。				
	<input type="checkbox"/>	業務の一部または全部について、民間で実施する方がサービス面で優れている。				
	<input checked="" type="checkbox"/>	民間では実施していない、または市が実施する方が優れている。				
12 総合評価						
(1) 自動判定結果						
	〔 〕：良好な状態を維持する事業					
	〔 〕：概ね良好な状況である事業					
	〔 〕：見直しを行う必要がある事業					
	〔 〕：抜本的な見直し、休止、廃止を検討すべき事業					
(2) 担当課の課長による評価（今後の方向性）			(3) 課長の評価に関する説明			
見直し	<input type="checkbox"/>	拡充・充実				
	<input type="checkbox"/>	現状維持				
	<input checked="" type="checkbox"/>	見直し				
	<input type="checkbox"/>	廃止				
13 成果の向上及び効率性を高めるための方策			14 課題として認識されたこと			
<p>広報紙、インターネット、講演会などを通じ、より多くの人に市史編さん事業について理解・協力・参加してもらう機会をつくる。市史刊行においては、市民に親しまれる内容となるよう努め、有償配布数の割合を増やしていく。</p>			<p>・計画の再検討に当たっては、合併、財政状況を踏まえる必要がある。 ・事業の進行に伴い蓄積されていく資料の保存場所の確保が必要である。</p>			
15 二次評価						
(1) 行政評価会議による評価（今後の方向性）			(2) 二次評価コメント			
見直し	<input type="checkbox"/>	拡充・充実				
	<input type="checkbox"/>	現状維持				
	<input checked="" type="checkbox"/>	見直し				
	<input type="checkbox"/>	廃止				
			担当課の課長による評価（今後の方向性）のとおり、見直しを進める。			